



2025年2月13日

各 位

会 社 名 株式会社デジタルメディアプロフェッショナル
代 表 者 名 代表取締役会長兼社長CEO 山本 達夫
(コード番号3652、東証グロース)
問 合 せ 先 代表取締役専務 経営企画部長 大澤 剛
T E L 03-6454-0450

新たな事業の開始に関するお知らせ

当社は、2025年2月13日開催の取締役会において、以下のとおり、新たな事業として次世代エッジAI半導体事業を開始することについて決議いたしましたので、お知らせいたします。

1. 事業開始の趣旨

当社は、「Making the Image Intelligent」というパーパスのもと、当社の創業来の強みである画像インテリジェンス（画像の知能化）の力で現実世界の問題を解決し、ステークホルダーに価値をもたらす革新的な製品とサービスを創造することに取り組んでいます。

近年、IoTデバイスの急速な普及、データプライバシーの保護要請や低遅延処理の必要性から、エッジでのAI処理需要が拡大しており、民生用途から産業・車載用途まで多彩なアプリケーション分野におけるエッジAI市場は、Global Market Insightsによると年平均成長率25%で拡大し、2032年には7百億ドル規模に達すると予想されています。

当社は、その市場規模、成長性および当社がこれまでGPU、AIプロセッサの設計・開発・販売において培ってきた豊富な経験・知見、市場実績、競争優位性を活かし、次世代エッジAI半導体事業を新たに展開します。

低消費電力、高性能、高いセキュリティ要件を同時に満たす革新的なエッジAI半導体を実現することで、世界のエッジAIニーズの急速な拡大に応えるとともに、本事業をアミューズメント事業に続く当社の長期的な事業基盤、成長エンジンとしてまいります。

2. 新たな事業の概要

(1) 新たな事業の内容

エッジ側でリアルタイム推論・画像処理を実行可能な次世代エッジAI半導体の開発、製造、販売事業
本事業では、グローバル市場で高い実績を持つiCatch Technology Inc.（以下、「iCatch」）を戦略的パートナーとして、同社の高品質画像処理技術と当社のコア技術であるAIプロセッサ技術を組み合わせることで、より高度な製品価値を創出します。

(2) 競争優位性

- ・当社のAIプロセッサ技術とiCatchの画像処理技術を統合
SoC(System on Chip)開発プラットフォームとIPを活用し、AIモデルの急速な進化、陳腐化に対応可能な開発期間の大幅短縮と開発コスト削減を実現

- ・ INT8 や FP4(4 ビット浮動小数点) など多様な量子化精度に対応する NPU (Neural Processing Unit) を搭載エッジ AI 半導体としては世界初の FP4 対応 (2025 年 2 月現在、当社調べ) となり、画期的な演算効率と処理性能を実現
- ・ iCatch のグローバル実績や ISP 半導体のノウハウを取り込むことで、短期間での製品化、高品質、安定供給を確保
- ・ 日本・台湾の両拠点によるグローバルサポート体制

(3) 当該事業の開始のために特別に支出する金額及び内容

半導体開発費として、340 万 US ドル (537 百万円 : 2024 年 12 月末為替レート換算) を予定しています。2025 年 3 月期は第 3 四半期に 50 万 US ドル (79 百万円 : 同上) を計上し、2026 年 3 月期は 190 万 US ドル (300 百万円 : 同上) を計上予定です。また、残りの 100 万 US ドル (158 百万円 : 同上) は事業 (販売) 開始の 2026 年 1 月以降一定期間で償却予定です。

3. 日 程

(1) 取締役会決議日	2025 年 2 月 13 日
(2) 事業 (販売) 開始	2026 年 1 月 (予定)

4. 今後の見通し

2025 年 3 月期の業績への影響は、上記開発費の計上を除き現時点では限定的と見込んでいます。2026 年 3 月期以降は、採用の決定している顧客向けの売上加え、モビリティ、ロボティクス、スマートカメラ、スマートシティ、スマートファクトリー等の分野における幅広い顧客獲得および iCatch との戦略的パートナーシップを活用したグローバル展開により、更なる収益の獲得を目指してまいります。本件の影響も踏まえた 2026 年 3 月期の業績予想については、本年 5 月開示予定の 2025 年 3 月期決算短信の中で開示予定です。

これらの数値や影響は、現時点での予測に基づくものであり、実際の業績は様々な要因により変動する可能性があります。今後公表すべき事項が発生した場合には速やかにお知らせします。

以 上

(参考) 当期連結業績予想 (2025 年 2 月 13 日公表分) 及び前期連結実績 (百万円)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
当期連結業績予想 (2025 年 3 月期)	3,075	255	255	210
前期連結実績 (2024 年 3 月期)	3,016	328	330	331